

【小国町】１人１台端末の利活用に係る計画

1. １人１台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

本町では、第 6 次小国町総合計画において小国型「小中一貫教育」の充実を掲げており、「知性・豊かな人間性を育み、21 世紀の国際社会、情報社会を逞しく生き抜く『おぐに』の子供の育成」を教育目標としている。その中で、GIGA スクール構想を踏まえた一人一台のタブレット端末の活用として、欠席児童に対するハイブリッド授業の実施や、AI デジタルドリルの活用による「個別最適な学び」、アクティブ・ラーニング・ルームの効果的な活用による「主体的・能動的な学び（or 対話的で深い学びの実現）」を図ることで、情報化社会を生き抜く児童生徒のために情報活用能力の向上に取り組んでいる。

2. GIGA 第 1 期の総括

GIGA 端末の整備と通信ネットワークの整備、「主体的・能動的な学び（or 対話的で深い学びの実現）」に向け、旧パソコン教室を改修し、アクティブ・ラーニング・ルームとして整備するなど、情報活用推進体制が整った。しかし、全校生徒がネットワークを利用した際の通信の負荷や通信機器の不具合等も踏まえ、定期的なネットワークアセスメントの必要性を感じている。また、導入から4年が経過したことにより、端末の容量が逼迫し、アップデートができないという課題が浮上した。実際に使用している教職員や児童生徒の意見も聞き入れ、適切な端末の更新が必須だと考えている。

さらに、児童生徒に効果的な ICT 活用の在り方について、先進的に ICT を活用している学校の取組や校務 DX の改善について学び合う機会を活用し、本町が抱える課題解決につなげていく。

3. １人１台端末の利活用方策

本町では、令和 7 年度以降、順次端末の更新を計画しており、児童生徒 1 人 1 台端末・校内 ICT 環境を引き続き維持し、以下の方策で一人一台端末の利活用を推進する。

(1) 一人一台端末の積極的な活用のために

本町では、一人一台端末の積極的な活用の取組として、ICT 支援員による授業支援を行っている。週に 1 回各学校を訪問し、機器の操作や助言、デジタル教科書等の ICT 活用に関する授業支援等を行い、教職員のサポート体制を整備している。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実について

学習支援ソフトや授業支援ソフト等を導入したことにより、教職員の ICT を活用した授業づくりが進められている。その中で、デジタルドリルの活用による個別最適な学びや、授業支援クラウドアプリケーション等の活用によって多様な意見や価値観に触れ、児童生徒が主体的に取り組む協働的な学びの実現にむけて、引き続き学校へ支援を行う。

(3) 学びの保障について

不登校児童生徒、障がいのある児童生徒等、特別な支援を必要とする児童生徒が一人一台端末、学習支援ツールを活用することで学習機会を確保する。